

動物由来医療廃棄物のリスクとマネジメントに関する研究（第1報）

代表研究者 吉備国際大学政策マネジメント学部 加藤 雅彦
 共同研究者 吉備国際大学政策マネジメント学部 井勝 久喜
 倉敷芸術科学大学生命科学部 古川 敏紀
 川崎医療福祉大学医療福祉学部 小林 春男
 研究協力者 東京慈恵会医科大学医学部 保科 定頼
 研究委託先 (株)コシダテック, (株)慈恵実業

本研究は、平成19年1月18日、環境省平成19年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究事業に応募し、4月19日、採択された。

目 的

1. 獣医療（①大学附属病院等である大型動物診療所，②犬猫病院である一般動物診療所，③産業動物診療所）や動物実験（動物実験施設）から排出される**動物由来医療廃棄物**については、主に、1) 人畜共通感染症によるリスク，2) 死体処理に伴うリスク，及び，3) 産業動物往診によるリスクが，医療機関から排出される人間由来医療廃棄物と異なるので，その**現状を調査**し，人間由来医療廃棄物とリスク等を比較する。
2. 上記調査の結果から，適した対策を検討し，上記①～④のそれぞれに関する一般的**マニュアル**（試行**ガイドライン**）を作成して実際の施設で試行し、実用化を評価する。

方 法(予定)

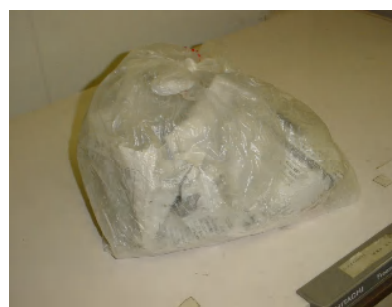
1. 上記①～③の施設について，発生量、内容物、処理方法等に関する**ヒアリング調査**（19年度）及び**アンケート調査**（20年度），並びに，**微生物**（サルモネラ、カンピロバクター、大腸菌O157、インフルエンザ等）**調査**（19年度）を行う。これらの結果を基に，上記リスク1)～3)とそれらの対策によるリスクに関する評価を行う。（20年度）
2. その後，「試行ガイドライン」を作成し，実際の施設で試行してもらう。試行後，アンケート調査により，実用化を評価する（20～21年度）。これらの結果を基に，「**最終ガイドライン**」を作成する（21年度）。



実験動物の床敷



注射針がリキャップされ廃棄される感染性廃棄物



これから冷凍保管される実験動物の死体

途中経過報告

予備調査	一般動物診療所 1件
ヒアリング調査	大型動物診療所 1件，一般動物診療所 2件，動物実験施設：1件
微生物調査（検出中）	一般動物診療所 2件

連絡先等

吉備国際大学政策マネジメント学部環境リスクマネジメント学科 〒716-8508 高梁市伊賀町8
 TEL 0866-22-9348 FAX 0866-22-7560 E-mail mykato@kiui.ac.jp